

令和6年度 館林市立第二中学校 学校評価一覧表(第2回)

R7.1.14現在

※表中およびグラフ中の数値の単位は「%」 表中の数値は「とてもそう思う」「そう思う」の合計

評価対象	評価項目	具体的数値項目	保護者	生徒	自己評価	グラフは左から「とてもそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」	改善策
I 保護者等との連携	学校は、連絡や生徒の様子等を保護者にきめ細かく伝え、理解を得ている。	○学校や生徒の様子が分かると感じている保護者が80%以上。	86		A	<p>保護者</p> <p>21 65 11 3</p>	○学年通信や配信アプリHome & Schoolの情報提供のほか、行事や部活動の大会結果などウェブページにアップしていきます。また、学校からのたよりは、必ず保護者に見せるように指導します。さらに、Home & Schoolの受信状況の確認と連絡を徹底していきます。
	学校は保護者が連絡や相談をしやすいと感じる雰囲気づくりに努めている。	○学校は連絡や相談がしやすいと感じている保護者が80%以上。	87.6		A	<p>保護者</p> <p>19 68 10 2</p>	○日々子ども一人一人の小さな変化を見逃さず、学校での様子を詳細に家庭に伝え、家庭と学校とで連携する体制をつくって、子どもの健やかな成長に尽力します。
	学校は地域の人たちや関係機関と連携し、教育活動の充実に努めている。	○学校は地域の人たちや関係機関と連携し、教育活動の充実に努めている。○学校は、生徒が地域に貢献する活動や地域の方々と交流する活動に取り組み、その意義を感じている。と答えている生徒が80%以上。	93	86.2	A	<p>保護者</p> <p>18 75 70</p> <p>生徒</p> <p>38 48 12 2</p>	○CSの機能を十分に生かせるように、保護者や地域の方々に、CSについて便利やウェブページ等で周知徹底していきます。また、地域の人材を活用した学習活動を積極的に取り入れ、関係機関との連携を図っていきます。
II 確かな学力	学校は、生徒が分かり、満足感や達成感を味わえる授業づくりを行っている。	○授業が分かると感じている生徒が80%以上。	59.7	85.7	A	<p>生徒</p> <p>24 62 12 3</p>	○単元を通して、学習への達成感や満足感を味わうことができるような授業づくりに今後とも努めていきます。
		○授業が楽しいと感じている生徒が80%以上。		79	B	<p>生徒</p> <p>33 46 17 4</p>	○何を学んだか、どのように学んだかを理解できるように、本時の学習内容を振り返るとともに、前時や次時とのつながりについても考えさせていきます。
	学校は、生徒の学習への意欲を高めることができるような工夫をしている。	○「探究的な活動を通して、授業に意欲的に取り組むことができた」と答えた生徒が80%以上。		87.9	A	<p>生徒</p> <p>38 50 11 1</p>	○校内研修等を通じて、各教科で取り入れている探究的な活動を職員間で共有することで、生徒がより意欲的に取り組めるような授業づくりの工夫について、引き続き考えていきます。
	学校は、生徒に家庭学習(塾等を含める)の時間が、1時間以上である生徒が80%以上。	○1日あたりの家庭学習(塾等を含める)の時間が、1時間以上である生徒が80%以上。	52.7	71.4	C	<p>生徒</p> <p>35 37 21 8</p>	○各教科において家庭学習の課題をさらに充実させていきます。○1学期の定期テスト時の学習計画・実施・振り返りをいかして、引き続き計画的な学習の仕方を身につけられるように支援していきます。
III 豊かな心	学校は、生徒が自分から進んであいさつができるよう適切に指導している。	○自分から進んでしっかりとあいさつができる生徒が80%以上。	83.7	92	A	<p>生徒</p> <p>42 50 8 0</p>	○教師による生徒への声かけや、学活・道徳等であいさつの意義を教えることにより、進んであいさつができるようになってきました。さらに気持ちのよいあいさつができるように引き続き、教師から元気に爽やかな模範となるあいさつに日々取り組んでいます。
	学校は、いじめのない学校づくりを推進している。	○学校生活が楽しいと感じている生徒が80%以上。	89.1	87.1	A	<p>生徒</p> <p>43 44 9 4</p>	○個々の生徒の合唱コンクールや学級での活動、部活動を通して、生徒役割を明確にし、それを成し遂げ、自己有用感を味わえるようにするための支援、声かけを行います。
		○学校のいじめへの対応や対策が十分であると思う生徒・保護者が80%以上。	88.3	74.6	B	<p>保護者</p> <p>9 79 10 2</p> <p>生徒</p> <p>18 56 22 4</p>	○未然防止策として、生徒主体のいじめ防止の活動を生徒会を中心に取り組みます。○道徳や学活、人権週間などを通して、いじめについて考える場を設けて、いじめは許されない行為だということを引き続き指導していきます。○本校のいじめ防止基本方針を常に検証しながら早期発見・早期対応を全職員で心がけ、報告・連絡・相談を欠かさずに行い、生徒、保護者に寄り添う指導をします。
	○ケータイ、スマホ、ゲーム機等を毎日、午後10時以降学習以外で使っていない生徒が80%以上。	54.3	28.6	E	<p>生徒</p> <p>40 32 16 13</p>	○学活や道徳等でケータイ、スマホの使い方について提案を行っています。近隣の小学校や警察署、企業等と連携を取り、使い方の指導や、使いすぎによる日常生活への影響について小中で連携した指導を行っています。	

	学校は、生徒が自己有用感を高めることができるような支援を適宜行っている。	○学校生活において自分の役割を果たし、みんなから認められるような自己有用感をもっている生徒が80%以上。	80.4	A	生徒 25 56 17 2	○自己有用感をもっている生徒は増えてきています。生徒の活躍の場をつくり、賞賛したり、認めたり、励ましたりすることで、さらに自己有用感を高められるよう支援していきます。	
IV 活動の意欲	学校は、生徒が行事や部活動に対して、主体的に活動できるよう工夫している。	○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している生徒が80%以上。	89.1	92.9	A	生徒 58 35 52	○学校行事は、生徒たちの健康を第一に配慮しながら、可能な実施方法で行っていきます。学校行事や部活動の意義や目的を伝え、積極的に参加できる生徒の育成に努めます。
	学校は、生徒が協力して清掃や係、当番活動に取り組むよう努めている。	○清掃や係、当番活動に友達と協力して進んで取り組んでいる生徒が80%以上。	87.5	A	生徒 36 51 10 2	○学活や道德等で学校やクラスのために活動することについて考える場を設けたり、日常の清掃活動等に進んで取り組んでいる生徒の姿を認め、声かけを行ったりしていきます。	
		係当番 91.5	A	生徒 42 50 7 2			
V 健康・体力	学校は、生徒が毎日朝食や適切な睡眠をとって登校できるよう具体的な働きかけを行っている。	○毎日必ず朝食をとっている生徒が90%以上。	89.1	86.6	B	生徒 70 17 6 7	○掲示物や保健日より等で、朝食の大切さについて啓発をしていきます。感染症や熱中症の予防の為に規則正しい生活で免疫力を高めることの重要性を理解し、実践していけるよう引き続き、発達段階に応じた生活指導を続けていきます。
		○週平均1日6時間以上の睡眠をとっている生徒が90%以上。	83.7	82.6	B	生徒 53 29 13 5	○体調不良で来室する生徒の中には、睡眠不足が原因と考えられる者もあり、睡眠の大切さについてその都度個別の指導を行っています。また、質の良い睡眠がとれるよう、睡眠時の環境の整備や睡眠前にスマートフォンなどの使用を控えることの重要性を保健日よりや保健委員会の取り組みを通して啓発していきます。
	学校は、進んで体力の向上を図ろうとする生徒の育成に努めている。	○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている生徒が90%以上。	85.7	B	生徒 48 38 12 2	○体力向上を目指したい意識は多くの生徒がもっていて、朝ランに参加する生徒も多い状況です。しかし、継続して取り組めているとは言えないのが現状です。そのために、努力を評価して自信をもたせていきます。自己有用感の味わえる体力づくりへの取り組みに努めます。	
VI 安全確保	学校は、交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っている。	○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している生徒が100%。	99.2	96.9	B	生徒 60 67 11 6 7 3	○各学級の短学活や集会で「自転車に乗るときのヘルメット着用が義務化された」という情報を伝え、登下校だけでなく、私生活においてもヘルメット着用を呼びかけていきます。
		○災害や、火災発生時の避難の仕方に関する態度を身に付けている生徒が80%以上。	83.9	A	生徒 45 39 13 3	○不審者対策訓練の際に、「状況によって避難経路が異なる」ということや、災害の起きる場所によって自分で避難経路を考えることが大切であると伝えていきます。	
	学校は、家庭や地域と連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロールを適切に行っている。	○自分の通学路の事故等が起こりそうな危険箇所を知っている生徒が80%以上。	75	B	生徒 38 37 19 6	○フロアに掲示してある安全マップを再度確認するよう促したり、パトロールをして把握した危険箇所を短学活等で生徒に伝えていきます。	
	○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている保護者が80%以上。	93.8	A	保護者 30 64 60	○引き続き、定期テスト期間の登下校の交通指導を行ったり、正しい自転車の乗り方ができている生徒を賞賛したりしていきます。		
VII 進路・生き方	学校は、生徒の主体的な進路決定に向けて、夢や希望を大きくむキャリア教育の充実を図っている。	○自分の将来への夢や希望をもっている生徒が80%以上。	63.6	76.3	B	生徒 41 36 19 5	○1年生は興味のある職業や身近な大人の職業について調べることで、自己の将来に前向きな思いを抱かせるようにします。 ○2年生は9月に職場体験学習を実施予定です。将来の就労に向けての自己理解を深められるようにします。
		○親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている家庭が80%以上。	88.4	80	A	保護者 40 49 10 2	○3年生は年2回の教育相談や10月に保護者対象の進路説明会を行うことで、家庭内で進路に対して話し合う機会を促していきます。また、進路通信を通して、必要な情報を発信したり、面接練習を通して自己の特色を見つめたりできるようにしていきます。